

小学校部会記録（平成17年11月29日）

授業者 北村 聡 先生
司会者 佐藤 秀人 先生
助言者 中澤 美明 指導主事

（授業者より）

○今日はありがとうございました。大変勉強になりました。

○研究の視点関わって

- ・学級の児童は地域に関わる価値ある体験をしているが、その特色を考えることはできていないという実態があった。そのため、実体験をもとにして地域のよさを学ばせたかった。
- ・最初は、旭川空港を核とした教材化を図ったが、実際の物流に使われている事実が少なく難しかった。
- ・いちごは空輸されるなど旭川空港ともつながりがある。
- ・3つの視点（ホープの工夫・いちご農家の工夫・いちごを運ぶ工夫）から調べることで、地域の特色を理解できると考えた。
- ・この単元構成は発展的に「東神楽への愛着」も扱えるものとなる。
- ・ほうれん草は家具なども地域教材として考えたが、いちごとした。理由は北のベンチャーの熱い思いを感じたことが一番である。
- ・「ホープのいちごは土ではなく試験管で最初作られる」「45都道府県に出荷されている」「大きなチェーン店などでも使われている」等の事実がある。それらのことを知ることで既習事項とのズレが生まれて、意欲化できると考えた。

○本時に関わって

- ・個々の力に差があったうえに、授業前には欠席者が多くなるなど、予定通りに進まなかったが、その児童なりに意欲的な取り組みができた。
- ・子どもたちの追究がたりないところは、適宜指導者から補完した。
- ・クイズに対する答えが、根拠不足になった面があった。授業の中から根拠を探し出してほしかったが、子どもたちは日頃の家庭生活から考えたようだ。
- ・夏の涼しい気候については授業者より提示した。
- ・ゲストティーチャーには地域への愛情や愛着を中心に話してもらった。
- ・今回はいちご作りの工夫や願いについて大きく取り上げたが、学年によっては流通など多岐にわたるよい教材となるだろう。

（温泉部会長）

○おもしろい教材に出会えたと感じている。

（増子和彦…帯広啓北小）

○地域への誇りを持たせるという意味でホープを取り上げたのはとてもおもしろい。

○本時の中で「ホープ」「農園」「輸送」を取り上げたが、多すぎないか。視点ごとに1

時間合ってもよいくらいと考える。そうすることで資料を基にしたゆっくり、じっくり考える授業となるのではないか。

- 見学やまとめの段階で、指導者が気をつけていたことは。
- 授業中に書く時間を設けるべきではないか。

(田中和幸…富良野扇山小)

- 児童はいちごがどう作られているか(苗は一年ごとに新しくなるなど)をわかっていないのではないか。

(石井信一…当麻宇園別小)

- ホープは苗を栽培するだけでなく、トレーパックを作って輸送をする会社という側面がある。子どもたちはホープという会社をどのようにとらえていたのか。

(授業者)

- 子どもたちはホープは苗作りをする会社と認識している。物流センターは輸送をするところと認識している。物流センターは実際にはホープだが、区分けして意識させている。そのため、担当者を変えるなどしている。
- 苗は一年ごとに新しくしているなどについては知らないかもしれない。反省点としたい。
- 本時で「ホープ」「農園」「輸送」を取り上げたのは3つの発表から考えをつなげさせる1時間にしたかったから。
- 授業中に書く作業を入れることの重要性はわかる。しかし、書く時間に時間がかかる実態があるので割愛した。2時間扱いにした方がよかったのかもしれない。
- 複式なので、(3年生が)方位などを押さえていないという実態もある。社会見学に対しては「まず行ってみる」ところから始めた。質問などについては、前もって子どもたちに決めさせ、精査していた。
- まとめ方は「紙芝居」「新聞」など子どもたちの希望で行った。いろいろなことを書きたがるが、こちらの方である程度は選別した。クイズの問題は、「何を一番伝えたいか」を子どもたちに問いながら考えさせた。その結果、子どもたちは自分たちで伝えたいことをまとめていたと思う。

(増子和彦…帯広啓北小)

- 子どもたちを「消費者」の立場におくとよかったのではないか。「ケーキ屋」というのは我々のイメージする消費者と違うのでは。

(小田島充彦…士別小)

- 本時の中でグラフが出てくる。夏にいちごの生産が(全国的に)少ないことを出させたかった。
- 複式ということもあり、うまくいかないこともあった。改善の余地があるかもしれない。
- 魅力的な教材であることは間違いない。

(田中和幸…富良野扇山小)

- 栽培時期のグラフが本時に出てきている。しかし思い切ってこれを単元の導入に使ってもいいのではないか。

(授業者)

- 今回は試験管栽培の写真を導入に使っている。インパクトがあると思ったからだ。確かに、栽培グラフが導入というのもいいと感じている。

(温泉部会長)

- 正直なことを一つ。見学時期が指定されており、日程の調整が難しい面があった。
- 今回は棒グラフを採用している。この時期の子どもにも理解しやすく、もっともよいと考えた。

(石井信一…当麻宇園別小)

- ゲストティーチャーは授業のまとめをしてくれていた。とても授業者の意図がわかりやすく感じた場面だった。

(佐藤啓示…帯広啓北小)

- 帯広大会の時もゲストティーチャーとの打ち合わせは綿密に行った。しかしどうしても長くなる傾向があるのに、今回のゲストティーチャーはすばらしかった。話す内容も重要と感じるが、そのあたりはどのように打ち合わせていたのか。

(授業者)

- ゲストティーチャーには、物作りを通じて郷土への愛着・誇り・よさを伝えたいとくり返し話した。思いは授業者と重なっていたと感じている。

(佐藤啓示…帯広啓北小)

- 課題となっていた「東神楽のいちご作りのひみつ」は具体的にどう考えていたのか。

(授業者)

- 「人と人のつながり」「その思いや愛情」となると考える。

(佐藤啓示…帯広啓北小)

- 久保さんの農場だけで、中学年の教材としては十分ではないか。高学年の産業について学ぶ場面で「ホープ」が出てくるのでは。3～6年生の大きな単元と考えることも可能ではないか。
- 発表形態は人数も少ないので、円卓でよいし、発表物も小さな模造紙で十分と思う。

◎助言

(中澤美明…指導主事)

- 今回の大会を通じ、たくさんの資料をいただいた。とても感謝している。
 - 授業者の熱意や子どもへの思いを感じた。それが子どもに伝わっている。
 - 文部科学省の調査官の一人は「社会科は事実を大切にし、社会の一員として事象に対し、主体的に関わるべき」と述べている。それは上社連の考え方と同一と思われる。
 - この単元は事例のみの学習になりやすく、他地域とのかかわりのない授業が多いと指摘されている。しかし授業者の授業はそれをクリアしている。
 - 気づいたことを5つ述べる。
 - ①教材化するに当たって、子どもの実態をやはり4観点からとらえた方がよい。そしてそのことを記述した方がよい。4観点は子どもたちの力のベースをとらえるのに有用だ。
 - ②子どもの実態に応じた教材化をさらに考えるといい。すべてを子どもに与えるだけでは、冷静とは言えない。グラフがわからない児童もいたようだ。いちごの栽培法を知らない児童に試験管栽培についての導入は難しいかもしれない。
 - ③今回は単元の最後の時間であった。まとめを行う必要があったのではないか。線の学習とも言える「設備」「工夫」「販売」「他の地域」の発表を面の学習にするためには、それらのことから何かがわかる必要がある。
 - ④問題解決の流れがしっかりしている。問題解決学習の精度を学年に応じてあげていってもらいたい。そうでなければ、6年生の学習にはものすごい時間がかかってしまうことになる。
 - ⑤この単元が次の学習や総合的な学習に生きるなど、知識だけでなく学びからを伝えていくことも重要だ。
 - 上社連の研究は教材論からじっくり考えていくのが特徴。今こそのような組織が重要だ。
- <終了>